

# 式典委員会

委員長 吉田 弘

式典委員会が決定したこ  
とは次のとおりである。

◎記念式典  
日時 平成二十二年  
十一月六日(土)  
九時四十五分開会  
場所 柏崎高校大体育館

◎記念講演  
日時 同日 同所  
十時四十五分開演  
講師 宮脇 昭氏

◎申し込み  
申し込み

# 記念誌委員会

## 百周年からの怒涛の十年

代表 根立 俊樹

「回顧百十年 刊行」  
記念誌は、創立六十周年  
(一九六〇年)昭和三十  
五年)以来、周年記念事業の  
一環として、十年ごとに刊  
行されてきました。  
六冊めとなる今回は、百  
周年の直後であり、昨今の

# 記念講演会委員会

## 「二、〇〇〇万本の木を植えた男」

宮脇 昭氏の記念講演

来る十一月六日(土)創  
立百周年記念講演のため  
宮脇昭氏(現大分県立  
宮脇昭氏(現大分県立  
来柏します。

宮脇さんは広島文理科大  
を卒業後ドイツ国立植生  
図研究所で研鑽し、我が国  
に植物社会学を導入すると  
共に、「宮脇方式」によつて  
緑の植生を回復して来た理  
論と実践が表裏一体の植物

料性に配慮して、百周年以  
後の十年間を中心に、編集  
を開始したところで、構想  
の概略は次のとおりです。

●名称 「回顧百十年」  
●体裁 B5判  
●本文約六十ページ  
●巻頭にカラーグラビア  
●主な内容  
二世紀の出版  
百周年記念事業の継  
承、校内諸制度の変革  
中越沖地震からの復興  
最近十年史年表  
一年分見開き二ペー  
ジ、主な行事、教職員  
氏名、学年・男女別生  
徒数

生徒活動の記録  
親友会(本部、文化・  
運動の各部・同好会  
特に野球部の「選抜」  
出場と、水球・ハンド  
ボールの「ときめき国  
体」参加  
諸団体の活動概況  
同窓会(本部、東京・  
関西・新潟の各支部)、  
PTA、奨学会  
百周年記念事業の推進  
事業内容と経過

かした森づくりですが、そ  
の土地本来の樹種を選び、  
混植・密植によつて緑の回  
復を図るといふものです。  
つまり、ふるさとの木によ  
るふるさとの森づくりで  
す。そのキーワードである  
「潜在自然植生」の手掛り  
を与えてくれるのが、鎮守  
の森であると言っておら  
れます。

氏は東洋人初の国際生  
態学会会長を務め、八十歳  
を越えた今なお地球環境戦  
略研究機関国際生態学セン  
ター長として世界を駆け  
巡って活躍しておられます。  
一方、毎日出版文化賞を  
受賞した『植物と人間』朝  
日賞に輝いた『日本植生誌

(全一〇巻)をはじめ、『緑  
回復の処方箋』『森はあなた  
が愛する人を守る』『木を植  
えよ』他多数の著書があり  
ます。

また、それらの業績に  
よつて、紫綬褒章、ブルー  
プラネット賞などを受賞し  
ておられるのです。

理論と実践に裏づけられ  
た宮脇さんの講演からは、  
情熱とエネルギーがひしひ  
しと伝わり、感動すること  
請け合いです。また、植物  
や環境の内容にとどまらず、  
自然の摂理に基づく人間  
の生き方、教育の在り方  
なども汲みとることがで  
きるでしょう。大勢の方々の  
ご来場をお待ちしています。

# 祝賀会委員会

## 百十周年記念祝賀会の参加者を募集します。

委員長 青木 健

平成二十二年十一月六日  
記念式典の後、次の通り  
「祝賀会」を行います。

柏崎駅前二丁目 柏崎  
産業文化会館三階大ホール

午後一時開会予定。チ  
ケット代は五千円です。  
ご出席希望の方は、各期  
の幹事又は役員からお買い  
求め下さい。チケット郵送  
ご希望の方は、事務局宛ハ  
ンカクにてお願いします。



# 編集後記

証と言えるかも知れない。  
◆母校はこの十年過ぎま  
い活躍をしている。甲子園  
出場を始めとして、各部の  
活躍は「怒涛」でお知らせ  
しているとおりでである。

◆今年の新潟国体での本校  
の水球部の活躍は既に報道  
等でご存知の通りではある  
が、顧問の本校教員島岡先  
生からその活躍の後を綴っ  
てもらった。

◆SH(スーパーサイエ  
ンスハイスクール)の指定  
は、全国百余りの指定の中  
県内では、新潟南高校と柏  
崎高校の二校が選ばれた。  
本号にその活躍の一部の特  
集して載せた。

◆百周年の募金にも、オ  
ーストラリア研修の十年の実績  
の中昨年の研修内容を特集  
として寄稿してもらった。

◆同窓生の母校支援の一環  
である「よっこそ先輩」と  
称してボランティアによる  
出張授業もしてもらった。  
大変好評で新聞でも取りあ  
げられた。

◆同窓生による出版書籍の  
寄贈は、スチールの本箱二  
とされている。

段重ねに満杯で、入りきれ  
ないで購入を考えている。  
同窓諸氏の各部門での活躍  
は、母校生徒の大きな励  
みとなっている。

◆先日同窓会の百十周年記  
念名簿が発刊された。恒例  
のことではあるが、会員各  
位から「叱責」の電話を頂  
く。住所が間違っていて記  
述がある。名前が間違ってい  
る。明らかにこちらの事務  
的なミスであり誠に申し訳  
ないで謝っている。しか  
し、一時的な感情をぶつけ  
てこられる方もいる。代引  
きで勝手に送り付けるとは  
なにことだ、どういふこと  
なのか説明してほしい。よ  
く聞いてみると、本人では  
なく家族の方が申し込みを  
済ませていたことが判明し  
た。後で謝りの電話を貰っ  
てほっとした。

我々役員は、奉仕の精神  
でお手伝いしているわけだ  
が、少しばかり気分を害す  
る。ちよつとした気遣いが  
あつたらギクギクすることも  
なくお手伝い出来るのだと  
思っている。

# 運営費納入のお知らせ

本同窓会の会計年度は7月1日から翌年の6月30日までです。  
今年度も納付書を同封いたしましたのでよろしくご願ひいたしま  
す。同窓会活動の円滑な運営のため、今後ともご協力をお願いいた  
します。

## 運営費納入状況 (平成21年7月1日～平成22年2月3日)

卒業回(卒業年/月)	件数	納入額	卒業回(卒業年/月)	件数	納入額
(旧制中学校)			17回(昭和40/3)	44	88,000
19回(大正12/3)	1	2,000	18回(昭和41/3)	56	112,000
20回(大正13/3)	0	0	19回(昭和42/3)	38	76,000
21回(大正14/3)	0	0	20回(昭和43/3)	51	102,000
22回(大正15/3)	1	2,000	21回(昭和44/3)	41	82,000
23回(昭和2/3)	0	0	22回(昭和45/3)	40	80,000
24回(昭和3/3)	0	0	23回(昭和46/3)	31	62,000
25回(昭和4/3)	0	0	24回(昭和47/3)	27	54,000
26回(昭和5/3)	0	0	25回(昭和48/3)	39	80,000
27回(昭和6/3)	1	2,000	26回(昭和49/3)	16	34,000
28回(昭和7/3)	3	6,000	27回(昭和50/3)	42	84,000
29回(昭和8/3)	1	2,000	28回(昭和51/3)	33	66,000
30回(昭和9/3)	2	4,000	29回(昭和52/3)	24	48,000
31回(昭和10/3)	1	2,000	30回(昭和53/3)	32	64,000
32回(昭和11/9)	1	2,000	31回(昭和54/3)	24	48,000
33回(昭和12/3)	1	2,000	32回(昭和55/3)	12	24,000
34回(昭和13/3)	2	4,000	33回(昭和56/3)	10	20,000
35回(昭和14/3)	7	14,000	34回(昭和57/3)	10	20,000
36回(昭和15/3)	8	16,000	35回(昭和58/3)	14	28,000
37回(昭和16/3)	8	16,000	36回(昭和59/3)	16	32,000
38回(昭和17/3)	7	14,000	37回(昭和60/3)	10	20,000
39回(昭和18/3)	9	18,000	38回(昭和61/3)	18	36,000
40回(昭和19/3)	17	34,000	39回(昭和62/3)	12	24,000
41回(昭和20/3)	21	42,000	40回(昭和63/3)	6	12,000
42回(昭和20/3)	27	54,000	41回(平成元/3)	14	28,000
43回(昭和21/3)	9	18,000	42回(平成2/3)	9	18,000
44回(昭和22/3)	23	46,000	43回(平成3/3)	17	34,000
45回(昭和23/3)	16	32,000	44回(平成4/3)	6	12,000
46回(昭和24/3)	2	4,000	45回(平成5/3)	10	20,000
(高等学校)			46回(平成6/3)	9	18,000
1回(昭和24/3)	8	16,000	47回(平成7/3)	14	28,000
2回(昭和25/3)	24	48,000	48回(平成8/3)	8	16,000
3回(昭和26/3)	27	54,000	49回(平成9/3)	5	10,000
4回(昭和27/3)	48	96,000	50回(平成10/3)	7	14,000
5回(昭和28/3)	39	78,000	51回(平成11/3)	7	14,000
6回(昭和29/3)	49	98,000	52回(平成12/3)	2	4,000
7回(昭和30/3)	49	98,000	53回(平成13/3)	6	12,000
8回(昭和31/3)	44	88,000	54回(平成14/3)	7	14,000
9回(昭和32/3)	36	72,000	55回(平成15/3)	10	20,000
10回(昭和33/3)	48	96,000	56回(平成16/3)	8	16,000
11回(昭和34/3)	51	102,000	57回(平成17/3)	9	18,000
12回(昭和35/3)	42	84,000	58回(平成18/3)	11	22,000
13回(昭和36/3)	39	78,000	59回(平成19/3)	21	42,000
14回(昭和37/3)	43	86,000	60回(平成20/3)	24	48,000
15回(昭和38/3)	33	66,000	61回(平成21/3)	53	106,000
16回(昭和39/3)	45	90,000	計	1,696	3,400,000